

令和3年度 学校評価報告書 ※ アンケート評価 A:そつ思う B:ややそつ思う C:あまり思わない D:思わない E:わか 評価 A:十分満足である B:ほぼ満足である C:改善の必要がある											島根県立遷摩高等学校					
評価計画					検証方法(アンケート等)			学校評価の結果・評価・課題・改善案								
重点目標	運営方針	主分掌	具体的な取り組み事項	評価指標(到達したい状況・状態)	目標値	アンケート			結果	昨年度(参考)	校内評価	反省及び次年度への課題等	学校関係者評価	改善案		
						教職員	生徒	保護者								
学校の魅力化	総合学科高校としての魅力化支援	総務	・オープンスクールの充実を図る。参加申込書を遷摩高校が作成し中学校に配布することで、中学生が参加しやすい申し込み方法に変更する。	2回のオープンスクールの延べ参加人数140人以上	100%				第1回 123 第2回 60 合計 183	第1回 164 第2回 45 合計 209	A	・ほぼ例年とおりの参加者数を維持できた。2回目は開催日を変更したが周知不足のため一部の中学校では見落とされたので次年度は改善する。また、31名が2回とも参加してくれたが、次年度はこの数字を伸ばしたい。	A	・実施要項はHPと公文書の両方で周知する。周知時にはオリジナルポスターまたはチラシを付ける。		
	PTA活動の充実		・心算「文化祭の部」でPTA事業を実施し、生徒・教職員・保護者の学校満足度を上げる。	教職員・生徒・保護者アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	80%	○								・感染症拡大防止のため、2年続けて実施できなかった。来年度は実施可能な方法を検討したい。	・実施可能な活動の検討	
					80%	○										
	総合学科教育推進の柱となる体制作りと、各部室と連携した体系的な教育体制作り	総合学科研究	・産業界と人間、総合的な探究の学習、課題研究が効果的かつ系統的に実施できる体制を整備する。	教職員・生徒・保護者アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	80%	○				72.4%	87.5%	B	・分掌創設2年目は1,2学年主任を介して学年会との連携強化を目指す体制を作ったことで、これまで表示しなかった諸問題を分掌内で共有、協議できた。	B	・総合学科教育の推進は学校全体で取り組むもので本分掌だけで担うものではないが、体制作り半ばの現段階は分掌内で抱える業務が非常に多くなっている。分掌・学年会に今の状況を理解してもらうだけではなく、共有・分担するために、新教育課程やグラウンドデザインも含めて校内体制を検討していく必要がある。	
	地域と連携した総合学科教育の魅力化推進		・学校行事「遷摩高フェア」を全学年・全教職員体制で実施し、総合学科高校における地域課題解決型学習の成果を具体的に顕現化させる。	教職員・生徒・保護者アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	80%	○				88.2%	92.6%	A	・「石見銀山保全活動プロジェクト」を始動でき、地域との繋がりのなかで2年生の成長や1年生の継承する姿勢を感じる手ごたえを得た。次年度も継続させたい。	A		
	鳥根県ならびに本校の総合学科教育の研究と実践		・教員志向総合学科研修を通じて県内・全国の拠点で本校の総合学科教育の改善と充実を図る。	教職員アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	80%	○				90.0%	84.8%	A	・全教職員の共通理解に十分な時間を充てられなかった。次年度は共通の目標に向かう姿勢や力を合わせて解決を目指す態度など、教員の基本的な資質を發揮して連携・協働ができるように積極的に情報の発信・共有をおこなう。	A		
	学校関係者、中学生、地域に対する効果的な情報発信	図書情報研修	・分掌・学年会・系列などから情報を収集しHPに掲載して、効果的な情報発信に努める。 ・学校の魅力をHPを通じて発信し、学校のPRに努める。	HPアクセス解析によるアクセス数情報掲載数：月平均15回以上 アクセス数：月平均3,000回以上	100%					掲載数 184回 アクセス数 3000回	掲載数 154回 アクセス数 3441回	A	・HP等で学校や部活動などの情報を提供したため、多くの方にアクセスしていただいた。また、前年度より掲載数が増えたため目標値のアクセス数3000回が達成したと考えられる。多くの先生方に掲載データの提供してもらったのが要因である。次年度も継続して、学校の魅力発信にHPを活用していきたい。	A	・来年度はHPリニューアルの年と業者の方から聞いており、更に魅力あるHPを作っていく。そして、今後も学校行事・分掌・系列・部活動などの活動成果をタイムリーに掲載するよう努める。	
	遷摩高校満足度の向上		・教職員一人ひとりの魅力ある学校づくりを推進する。	生徒アンケートにおいて「学校生活に満足している」に対して「A」「B」と回答した割合	80%	○				77.7% ○内は上から1年(85.9%) (70.2%) (77.6%)	82.8% ○内は上から1年(79.5%) (88.2%) (83.1%)	B	・コロナ禍において、活動が思うようにならなかったり、学校生活に不安を感じたりなど、安心して学校生活を送ることできなかった生徒が増えたと考えられる。	B	・安心、安全な学校生活を送ることが必要である。いじめやSNSなどの生徒間トラブルや、不登校傾向にならないようするための対策や早期対応に一層強化していくと共に、個別面談等で、徳々の抱える問題にいち早く気づき、寄り添う指導体制をより強化していく。 ・また、基礎学力の定着、基本的な生活習慣の徹底を強化し、夢の実現に向けて、充実した学校生活を送れるよう指導体制を充実させていく。	
	円滑な学校運営と施設設備の充実	事務	・給付金等支援制度の申請や各種証明書の発行に伴う適確な対応、効果的な予算執行による施設設備の充実。	教職員・保護者アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	90%	○				92.9%	93.8%	A	・規定予算の効率的な予算配分と、コロナウイルス感染症対策予算による効果的な施設修繕が実現できたと考える。	A	・引き続き予算の効率的、効果的な執行に努める。	
	生徒の将来を見通したキャリア教育の充実	総合学科研究	・選択ガイダンスや見学体験を通じ、生徒が主体的に進路目標に応じた選択ができる体制を強化する。	教職員・生徒・保護者アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	80%	○				89.7%	97.1%	A	・1年生の系列選択時期を11月に変更して2年目となるが、系列体験授業や授業見学は昨年より計画的に実施できた。	A	・来年度入学生から4系列に再編するため、系列選択のための指導計画を見直す。	
	図書館活用の充実と読書活動の推進	図書情報研修	・新聞学習・出前文庫・読書感想文などを通して読者に親しむ生徒を育成する。 ・新書・推薦図書を紹介するとともに、有益な蔵書構成を促して、読書意欲を喚起する。 ・図書館を利用した各種活動を実施して、図書委員会を活性化させる。 ・教科指導や総合的な探究の学習の時間などにも活用できる図書や環境整備に努める。	教職員・生徒のアンケートにおいて「図書館を利用することができた」に対して「A」「B」と回答した割合	80%	○				65.5%	73.5%	B	・「あまりそつ思わない」以下の評価が10名あり、昨年度より下がった。学校全体の業務が多忙化・複雑化したため原因かも知れない。	B	・業務の精選化が進めば教材研究のゆとりが増え、図書館利用にまで発展させられるかも知れない。新教育課程に対応した図書館の購入を考えた。	
	校内外の体系的な学習活動への積極的な参加の促進	生徒指導	・生徒主体で達成感もてる生徒会活動を創造する。	教職員・生徒・保護者アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	80%	○				85.7%	97.1%	A	・目標には届かなかったため校内評価をことしたが、昨年度より11ポイント上昇しているため、この上り調子を維持したい。	A	・卒業生追跡調査(試験実施)の結果を分析・検証し、将来の生き方や進路を見据えた主体的な選択の実現を検証する。	
自他ともに尊重し、共感できる人間関係の育成	進路指導	・「学校生活アンケート」を実施し、その結果を受けて面談を行う。また、集会などを通して多様性の理解・啓発を行う。 ・日常の会話、観察を通して担任、学年会との連携を図り、生徒の変化の早期発見に努める。	教職員・生徒・保護者アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	80%	○				88.9%	98.1%	A	・1～2月に計画して卒業生追跡調査(試験実施)だが、準備・実施が遅れている。	A			
生徒の個性・資質を的確に把握し、進路意識の伸長と最適な進路実現をめざす指導の充実と推進	進路指導	・進路希望調査・生徒面談・各種検査を効果的に利用する。 ・社会人としての基本的なルールを身につけさせる。	教職員・生徒・保護者アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	100%					95.4%	90.5%	A	・「あまりそつ思わない」以下の評価が10名あり、昨年度より下がった。学校全体の業務が多忙化・複雑化したため原因かも知れない。	B	・業務の精選化が進めば教材研究のゆとりが増え、図書館利用にまで発展させられるかも知れない。新教育課程に対応した図書館の購入を考えた。		
相談活動の充実	保健	・ケース会、カウンセリング委員会等を開催し情報共有を図る。また外部機関との連携を図る。	教職員アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	80%	○				61.5%	50.7%	C	・目標には届かなかったため校内評価をことしたが、昨年度より11ポイント上昇しているため、この上り調子を維持したい。	C	・今年度は授業の利用数が伸び、休み時間に図書館に来る生徒も増えたが、新委員長を中心に図書館企画を計画し、目標を達成した。		
健康管理の推進。学習環境の美化と施設保全	保健	・保健委員による感染症予防対策・学校環境美化(掲示物や集会・放送等での呼びかけ、掃除用具の整理・補充)の実施	教職員・生徒のアンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	80%	○				152時間	116時間	B	・図書館の稼働率は上がっているが、一部の教科によるもの。	B	・ICT利用環境の宣伝や図書館資料の充実を図り、多くの教科で利用してもらえるよう働きかける。		
特別支援教育の推進と生徒理解	特別支援教育	・教職員研修の企画・実施や便りの発行を行う。 ・特別支援教育推進委員会や学年会で校内の情報共有するとともに、外部機関とも連携を図る。	教職員アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	80%	○				3冊	3冊	A	・昨年引き続き昼休みや放課後等で図書館を利用する生徒が増え、目標の貸出数を上ることができた。	A	・図書委員による選書を行い、より興味関心の高い本を入れることで幅広い生徒への貸出しに繋げる。		
人権教育の充実と多様性を認め合う心の教育の実践	人権教育	・人権に関するHR活動の企画・実施、便りの発行をおこなう。 ・教職員に対する情報発信や研修の企画・実施をおこなう。	教職員・生徒・保護者のアンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	80%	○				85.7%	97.1%	A	・コロナ禍においてはいろいろな制限があるなか、取り組んでいる学校の活動に対しては、保護者の理解は得られている。しかし、生徒はなかなか終わらない感染症に対する閉塞感に不満を表す生徒が増えつつあるように思う。先生方もこれだけいいのだから日々葛藤しながら協力していきたい。より、大変感謝している。	A	・前年度と同じ設問で比較したが、教職員の連携という点について、特に生徒・保護者との数字に今年度は差が出たと思われる。生徒間のトラブルへの対応や個々の生徒対応に対して全教職員で同じ目標で取り組めるようにする必要がある。しかし、生徒・保護者は個々の先生方のご努力により、サポートを受けながら概ね安心して学校生活に取り組めたようである。	C	・様々な会議が設定されていることや部活動の指導など新たな会を設定することは難しいと思われるので、例えば学年会などに各学年の生徒指導部員が協議内容に応じて加わらせていただいていた。生徒指導部の会に学年主任の先生や関係の先生に加わっていただくなどの調整をさせていただきたい。
									88.1%	95.9%	A	・目標値に達し、一定の成果は得られた。しかし、進路便りの発行やホームページの掲載などを行い、保護者にもわかりやすく発信すべきだった。	A	・支援の必要な生徒に対して、積極的に声をかける。		
									82.8%	87.9%	A	・外部講師を依頼していた進路ガイダンスは感染症対策のため中止となったが、新しく進路weekや進路学習を企画し、実行することができた。これについては継続したいと考える。	A	・全校集会や学年集会等で呼びかけを行う機会を増やす。		
									88.5%	92.2%	A	・目標値に達し、一定の成果は得られた。しかし、進路便りの発行やホームページの掲載などを行い、保護者にもわかりやすく発信すべきだった。	A			
									81.0%	81.2%	A	・ケース会等の会議は定期的または必要に応じて実施でき、継続的な情報共有の会議もできた。支援の必要な他の生徒に対して、学年部への変更の声かけが必要であった。	A			
									86.2%	91.2%	A	・放送やクラスでの呼びかけはできたが、全校集会や学年集会で更に呼びかける必要があった。	A			
									82.5%	91.7%	A	・生徒保健委員会の活動は、あなたの感染症対策や環境美化に対する意識につながっていると思いますか。	A			
									93.1%		A	・本校は特別支援に対するももとの理解があり、また今年度は学年会で連携して支援にあたっていただいた。校内研修が2回(1回は新任者のみ)であった。必要性を感じるものの、多忙の中で日にちを設定することに抵抗も感じる。	A	・よりニーズにあった講師を呼べるよう予算を確保する。また、必要な時に個人で調べることができるような書籍やコンテンツなどの情報を提供する。学年会・分掌が連携しているいろいろな目で支援ができるような体制作りを行う。		
									93.1%	100.0%	A	・HR活動は、学年部主体で生徒の実態に合わせた企画・実施の流れを作ることができたが、さらに深化させる必要性を感じる。	A	・人権教育推進委員会を学期に1回程度ひらき、生徒の人権問題に関わる事案について情報共有・交換を行うほか、推進状況の見直しを行ったり、教職員研修の内容等の検討を行ったりするなどし、教職員全体で連携できる体制づくりを進める。		
									86.0%	96.6%	A	・あなたは、人権に関するHR活動や日々の学習活動を通して、自他の人権を大切にし、多様なあり方や生き方を尊重し、人権意識を高めていくことができましたか。	A			
									82.1%	75.1%	A	・あなたは、人権に関するHR活動や日々の学習活動を通して、自他の人権を大切にし、多様なあり方や生き方を尊重し、人権意識を高めていくことができましたか。	A			
									82.1%	75.1%	A	・学校は、人権に関するHR活動を中心とした教育活動の全体を通して、生徒の人権感覚を磨き、人権意識を高めるよう努めていますか。	A			

学習指導の充実	生徒の成長を促す授業実践の環境整備	教務	・授業実践力の向上	教職員アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	80%	○		あなたは、生徒の実態に応じて授業の内容や方法を工夫していますか？	92.9%	61.8%	A	・ICT活用の整備、および教員のICT活用スキルの向上が必要。 ・各教科、系列で生徒の実態に合わせたきめ細かい指導が実践できている。	A	・教員間の情報交換を促し、ICT活用をより普及させていく。 ・教員向けのICT研修会を実施する。			
	生徒の成長を促す授業実践の環境整備		・全体環境の整備（効果的なUD環境の定着を推進する）	教職員・生徒アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	80%	○		あなたはUDに係わる進摩高校のルールを認識し、それに基づいてわかりやすい授業を展開することに努めましたか？	93.1%	87.9%	A	・「本時のねらい・流れ」の提示をさらに徹底していかなければならない。	A	・新カリキュラムの実施へ向けての授業改善、指導と評価の一体化の実践。 （シラバス作成、指導計画の作成等）			
	情報機器を中心とした授業実践の環境整備		・PC教室やICT機器を管理するとともに、授業等でのPC教室やICT機器の活用を支援する。	教職員アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	80%	○		あなたが受ける授業は、目標や流れが提示され、チョークの色や板書の仕方が統一されるなど、誰もがわかりやすい授業が展開されていると感じましたか？	89.4%	94.3%	A	・遅進者への対応や生徒の実態に合わせた個別指導が展開できている。	A				
	情報機器を中心とした授業実践の環境整備	図書情報研修		教職員アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	80%	○		PC教室またはICT機器を授業等の教育活動に利用することができましたか。	65.5%	80.0%	B	・2月から一人1台のPCが配布され、校内研修も行われることを通してGoogleの利用に馴染んでもらえるといいと考える。	B	・2月から一人1台のPCが配布され、校内研修も行われることを通してGoogleの利用に馴染んでもらえるといいと考える。			
生徒指導の充実	自己実現に向けて主体的に取り組む制度の醸成	生徒指導	・適にふさわしい振舞・言葉遣いとコミュニケーション能力を高める。 ・挨拶の励行と身なり指導の徹底を図る。	教職員・生徒・保護者アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	80%	○		生徒が社会生活のルールやマナー、学校のきまりを意識して生活を送れるよう声がかげができましたか。	93.1%	94.3%	A	・先生方は、個々に生徒に声かけをさせていただいており大変感謝している。生徒の規範意識が少し下がっていること、先生方が生徒の様子を見られて、社会に通用する力を身に付けているのかについて危機感を持っておられることを頭に置いて学校生活のルールについて伝えていく必要がある。	A	・学年集会、全校集会での呼びかけの継続、時代の流れに応じた校則の見直し、定期的な身なり点検の実施等、続けていきたい。			
					80%	○		あなたは社会生活のルールやマナー、学校のきまりを意識して生活を送っていますか。	93.2%	97.6%	A	・あまり利用されていない、と回答された先生方が10人だった。Googleを利用した指導まで手が回らなかったことが考えられる。	A	・学年集会、全校集会での呼びかけの継続、時代の流れに応じた校則の見直し、定期的な身なり点検の実施等、続けていきたい。			
					80%		○	お子様は社会生活のルールやマナー、学校のきまりを意識して生活を送っていると思われませんか。	85.6%	90.6%	A	・寮生の生活時間に清掃活動を新たに取入れたことにより美化意識が高まりました。 ・感染及び宿舎舎監の先生方に不便をおかけしましたが、ご理解ご協力をいただくことができ無事終了することができました。	A	・学年集会、全校集会での呼びかけの継続、時代の流れに応じた校則の見直し、定期的な身なり点検の実施等、続けていきたい。			
	生活環境の整備	舎務	・共用場所の環境美化に取り組み ・風呂場の改修工事への協力する	教職員アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	80%	○		共用場所の環境美化（トイレ、浴室・脱衣場）に取り組んでいましたか。風呂場の改修工事への協力を舎務部が生徒とともに取り組んでいたと思いますか。	95.8%		A	・学年集会、全校集会での呼びかけの継続、時代の流れに応じた校則の見直し、定期的な身なり点検の実施等、続けていきたい。	A	・学年集会、全校集会での呼びかけの継続、時代の流れに応じた校則の見直し、定期的な身なり点検の実施等、続けていきたい。			
					1年	・進路に関する意識をもたせ、適切な進路選択を行えるように支援する。	教職員・生徒・保護者アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	80%	○		「産業社会と人間」の授業や個人面談は、生徒に進路意識を持たせ、進路希望や目標に適した系列選択をするための有効な手立てとなりましたか。	91.7%	89.7%	A	・担任の先生を中心に、関係分掌や系列と連携しながら実施できた。系列選択について、ミスマッチがないように系列の先生方のアドバイスをいただき、必要に応じて面談を重ねることができた。保護者との面談は冬休みを待たずに予備登録時にできるとよいという意見もあり、検討が必要であった。	A	・学年集会、全校集会での呼びかけの継続、時代の流れに応じた校則の見直し、定期的な身なり点検の実施等、続けていきたい。
								80%	○		「産業社会と人間」の授業や担任の先生との面談は、あなたが卒業後の進路について考え、自分に適した系列を選択するための助けとなりましたか。	93.7%	95.6%	A	・今の学校生活が進路実現につながることを意識させ、学習や日常生活が充実するよう支援していきたい。	A	・学年集会、全校集会での呼びかけの継続、時代の流れに応じた校則の見直し、定期的な身なり点検の実施等、続けていきたい。
	学年会による指導の充実	1年	・進路設計の授業やPBLインターンシップ等で毎時のねらいを確認させ、「問題発見・解決能力」の育成を図り、進路意識を深めさせる。	教職員・生徒・保護者アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	80%	○		学校は、お子様が希望の進路や目標にあった系列選択をするために十分な支援をしていますか。	91.2%	88.2%	A	・進路実現のための進路学習の時間がなかなか取れなかった。真摯に今回のアンケート結果を受けて学年会・校務分掌・管理職等の連携を密にしていきたい。また、学年会が進路実現に向けて何をしているのか分からないと答えられた先生方が多くおられたので、職員会議等に議題として随時提出し共有していきたい。	B	・学年集会、全校集会での呼びかけの継続、時代の流れに応じた校則の見直し、定期的な身なり点検の実施等、続けていきたい。			
					80%	○		全体・個別指導などの学年会における取り組みは、生徒の実態を考慮し、進路実現に向けてふさわしいものでしたか。	76.2%	95.7%	B	・進路実現のための進路学習の時間がなかなか取れなかった。真摯に今回のアンケート結果を受けて学年会・校務分掌・管理職等の連携を密にしていきたい。また、学年会が進路実現に向けて何をしているのか分からないと答えられた先生方が多くおられたので、職員会議等に議題として随時提出し共有していきたい。	B	・学年集会、全校集会での呼びかけの継続、時代の流れに応じた校則の見直し、定期的な身なり点検の実施等、続けていきたい。			
					80%	○		学年集会や個別面談は、あなたのやる気を高めたり、進路実現につながるような成長のきっかけをあててくれるものとなりましたか。	87.1%	95.8%	A	・進路実現のための進路学習の時間がなかなか取れなかった。真摯に今回のアンケート結果を受けて学年会・校務分掌・管理職等の連携を密にしていきたい。また、学年会が進路実現に向けて何をしているのか分からないと答えられた先生方が多くおられたので、職員会議等に議題として随時提出し共有していきたい。	A	・学年集会、全校集会での呼びかけの継続、時代の流れに応じた校則の見直し、定期的な身なり点検の実施等、続けていきたい。			
	2年	・進路設計の授業やPBLインターンシップ等で毎時のねらいを確認させ、「問題発見・解決能力」の育成を図り、進路意識を深めさせる。	教職員・生徒・保護者アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	80%	○		学年通信・学級通信の配布や保護者面談は情報提供の場となり、お子様の進路選択につながる有意義なものでしたか。	82.4%	84.1%	A	・進路実現のための進路学習の時間がなかなか取れなかった。真摯に今回のアンケート結果を受けて学年会・校務分掌・管理職等の連携を密にしていきたい。また、学年会が進路実現に向けて何をしているのか分からないと答えられた先生方が多くおられたので、職員会議等に議題として随時提出し共有していきたい。	A	・学年集会、全校集会での呼びかけの継続、時代の流れに応じた校則の見直し、定期的な身なり点検の実施等、続けていきたい。				
				80%	○		全体・個別指導などの学年会における取り組みは、生徒の実態を考慮し、進路実現に向けてふさわしいものでしたか。	90.5%	100.0%	A	・進路実現のための進路学習の時間がなかなか取れなかった。真摯に今回のアンケート結果を受けて学年会・校務分掌・管理職等の連携を密にしていきたい。また、学年会が進路実現に向けて何をしているのか分からないと答えられた先生方が多くおられたので、職員会議等に議題として随時提出し共有していきたい。	A	・学年集会、全校集会での呼びかけの継続、時代の流れに応じた校則の見直し、定期的な身なり点検の実施等、続けていきたい。				
				80%	○		学年集会や個別面談は、あなたのやる気を高めたり、進路実現につながるような成長のきっかけをあててくれるものとなりましたか。	82.6%	96.9%	A	・進路実現のための進路学習の時間がなかなか取れなかった。真摯に今回のアンケート結果を受けて学年会・校務分掌・管理職等の連携を密にしていきたい。また、学年会が進路実現に向けて何をしているのか分からないと答えられた先生方が多くおられたので、職員会議等に議題として随時提出し共有していきたい。	A	・学年集会、全校集会での呼びかけの継続、時代の流れに応じた校則の見直し、定期的な身なり点検の実施等、続けていきたい。				
3年	・進路実現のために、日々の学校生活において凡事徹底を図らせる ・職業観・勤労観を確立させる	教職員・生徒・保護者アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	80%	○		学年通信・学級通信の配布や保護者面談は情報提供の場となり、お子様の進路実現につながる有意義なものでしたか。	70.0%	95.4%	B	・進路実現のための進路学習の時間がなかなか取れなかった。真摯に今回のアンケート結果を受けて学年会・校務分掌・管理職等の連携を密にしていきたい。また、学年会が進路実現に向けて何をしているのか分からないと答えられた先生方が多くおられたので、職員会議等に議題として随時提出し共有していきたい。	B	・学年集会、全校集会での呼びかけの継続、時代の流れに応じた校則の見直し、定期的な身なり点検の実施等、続けていきたい。					
			80%	○		全体・個別指導などの学年会における取り組みは、生徒の実態を考慮し、進路実現に向けてふさわしいものでしたか。	90.5%	100.0%	A	・進路実現のための進路学習の時間がなかなか取れなかった。真摯に今回のアンケート結果を受けて学年会・校務分掌・管理職等の連携を密にしていきたい。また、学年会が進路実現に向けて何をしているのか分からないと答えられた先生方が多くおられたので、職員会議等に議題として随時提出し共有していきたい。	A	・学年集会、全校集会での呼びかけの継続、時代の流れに応じた校則の見直し、定期的な身なり点検の実施等、続けていきたい。					
			80%	○		学年集会や個別面談は、あなたのやる気を高めたり、進路実現につながるような成長のきっかけをあててくれるものとなりましたか。	82.6%	96.9%	A	・進路実現のための進路学習の時間がなかなか取れなかった。真摯に今回のアンケート結果を受けて学年会・校務分掌・管理職等の連携を密にしていきたい。また、学年会が進路実現に向けて何をしているのか分からないと答えられた先生方が多くおられたので、職員会議等に議題として随時提出し共有していきたい。	A	・学年集会、全校集会での呼びかけの継続、時代の流れに応じた校則の見直し、定期的な身なり点検の実施等、続けていきたい。					

グランドデザインに関わる評価指標	実績・資格	A指標		新規高卒者の就職率	100%				100.0%	100.0%	A	・今後も本人の進路実現を支援していきたい。	A	・学年部、系列、分掌との連携・情報共有をさらに深める ・全教員で生徒の進路実現を支援する
				就職者のうちの県内就職者の割合	80%				92.3%	91.1%	A	・地域と連携したキャリア教育を実践していきたい。	A	
				系列の学びを活かした進学・就職者の割合	30%				47.2%		A	・各系列、学年部、進路指導部のご指導により目標を達成できた。	A	
	姿勢・意欲	B指標	主体性	生徒アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	70%	○		まじめに学習に取り組むことができましたか。	84.4%		A	・日頃の授業、学校行事、学校生活での指導・工夫や声かけが評価されたと考えられる。今後さらに進めていきたい。	A	・ICTの活用等による授業の工夫や、評価方法の研究を進め、魅力ある授業を実現する ・新教育課程が円滑に展開できるよう準備を進める ・活動や発表の場を設定することによって、主体的に学校生活に取り組めるよう努める
					70%	○		分からないことを人に聞いたり、自分の意見を発言できましたか。	79.6%		A		A	
					70%	○		人の話をよく聞き、話し合うことができましたか。	91.6%		A		A	
					70%	○		クラスや部活動などでの自分の役割を果たすことができましたか。	85.6%		A		A	
					70%	○		疑問に思ったことを自分で調べることができましたか。	74.7%		A		A	
					70%	○		自分の意見をまとめて発表できましたか。	72.2%		A		A	
	社会性	70%	○		学校の決まりやルールを守って生活できましたか。	91.1%		A		A				
		70%	○		地域の行事やボランティア活動に参加しましたか。	55.7%		C	・コロナ禍で地域での活動が少ない中で、関心を持ち参加する生徒も多いため、積極的に進めていきたい。	C				
成果指標	魅力化指標			魅力化アンケートの学習環境の4領域の結果が4領域とも3以上	100%				主体性4 協働性4 探究性4 社会性4	主体性3 協働性3 探究性3 社会性3	A	・感染症対応のため十分な活動ができない中で高い評価となった。今後もコロナ禍に対応した活動について模索を続けていく必要がある。	A	・地域と連携した活動ができるようコーディネーターおよびコンソーシアムを活用して協力者を増やし、活動の場を広げる ・道の駅を利用した地域連携事業をさらに検討する
				地域を支える人材の増加	80%				就職92.3% 進学52.2% 合計64.2%	就職91.1% 進学45.7% 合計71.3%	B	・本年度は就職希望者が少なく、全体として県内率が下がった。コロナ禍での地域との関わりの維持を考えていく必要がある。	B	・地域と関わる場を増やすことで、地域の魅力を感じ、地域に貢献したいと思う生徒を増やす。
				本校志願者数の増加	100%				87人	89人	B	・昨年度より志願者が減少した。コロナ禍で、本校の教育内容や活動の様子を理解していただく時間が十分取れなかったことが原因と考えられる。	B	・中高連携事業の強化 ・高校魅力化事業のPR強化